

シリーズ

「私の森語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「古民家と古木活用の多様な事業で
持続可能な社会づくりに貢献」



株式会社山翠舎
代表取締役社長
山 上 浩 明

■自己紹介

長野県長野市に本社を構える建築会社「山翠舎」の代表を務めています。

当社は一九三〇年に祖父が建具製作の木工所として創業し、二代目の父が法人化して、住宅や商業建築の施工会社へと発展させました。自宅は長野市の保存樹木に指定されている樹齢四〇〇年のケヤキに囲まれた環境。三代目の私は母方の祖父も材木屋を営むなど、木に囲まれて育ちました。大学卒業後はソフトバンクの営業職で社

長賞の受賞も経験し、二〇〇六年、当社に入社。二〇一二年に社長に就任し、以来、古民家の買取や解体から古木の流通、古木を使った建築設計、デザイン、施工、アフターサポートまでの一貫体制による空間づくりのほか、近年は開業支援サービスなど多彩な事業を展開しています。

なお、古木とは古民家から得られる上質で入手ルートが明確な古材を表す当社の登録商標です。

■活動内容

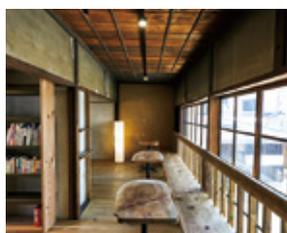
古木事業のきっかけは、今では入手困難な上質な古木を使った古民家が解体され、破棄されている現状に「もったいない」と感じたからです。持続可能な社会の実現は、今や避けては通れない企業の課題でもあります。私はサステナブル＝長く使うことだと考え、限りある古民家や古木の活用を通じて、資源だけでなく、伝統的な手仕事

の技術や大工・建築文化の継承にも取り組んでいます。この一連のシステムを「古民家・古木サーキュラーエコノミー」と名付け、グッドデザイン賞2020を受賞。審査委員の井上裕太氏のお気に入りとして「私の選んだ一品」にも紹介されました。

今年からは古民家再生のリーディングカンパニーとして、長野市と小諸市で古民家の自社運用も始めました。小諸市では行政と連携



敷地約2300坪の古木倉庫兼工場 (右上)



小諸サテライトオフィスの内装
古木が紡ぐ心地よいこだわりの空間 (左上下)

し、古民家を使ったサテライトオフィス事業のプロデュースも進めています。さらに、職人技が必要な古民家の活用には多額の費用がかかるため、今後はリスクを減らした資金調達を可能にするファイナンスサービスも予定しています。

■メッセージ

一〇〇年以上も前の建物が、今も使えるのは素晴らしいことです。当社のノウハウや事業のポイントを横展開して全国にこの流れをつくり、これからも古民家と古木のバリエーションアップを通じた持続可能な企業経営と社会づくりで、関わる皆が幸せになる「全方よし」の仕組みを目指していきます。

○連絡先

本社…
長野市大字大豆島4349-10
東京オフィス…
渋谷区広尾3-12-30 1F
設計施工のご相談…
TEL 050-54445-2755
古民家活用のご相談…
TEL 050-54445-1390
<https://www.sansui-sha.co.jp/>

